



“ダイナミックな経営変革が期待される企業に投資”

# 日興キャッシュリッチ・ファンド

追加型投信／国内／株式

販売用資料

2019年3月作成

設定・運用は

## 日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

## 注目高まる「キャッシュリッチ」企業

- これまで、手元に資金を積み上げる傾向にあった日本企業は、デフレからの転換期を迎えるなど日本経済に生じた構造的な変化や環境の変化などを背景に、資金活用やROE(自己資本利益率)の改善に対する意識を強めています。
- 今後、株主還元の積極化や、設備投資などの成長へ向けた資金投入が考えられるため、現金や預金など流動性の高い金融資産を多く保有する「キャッシュリッチ」企業への注目は、ますます高まるものと考えられます。

### 【構造的な変化】

- 景気回復
- デフレからインフレへの転換

企業が現金預金を保有する  
合理性の低下

### 【環境の変化】

- JPX日経インデックス400\*1算出開始
- 日本版スチュワードシップ・コード\*2の導入
- 日本版コーポレートガバナンス・コード\*3の導入
- “新”成長戦略

資金活用やROEに対する  
意識の高まりなど  
企業の変化

### 【キャッシュの使い道】

自社株買い、配当増

M & A

設備投資など

株高期待

\*1 ROEを銘柄選定の基準に組み入れた新たな株価指数

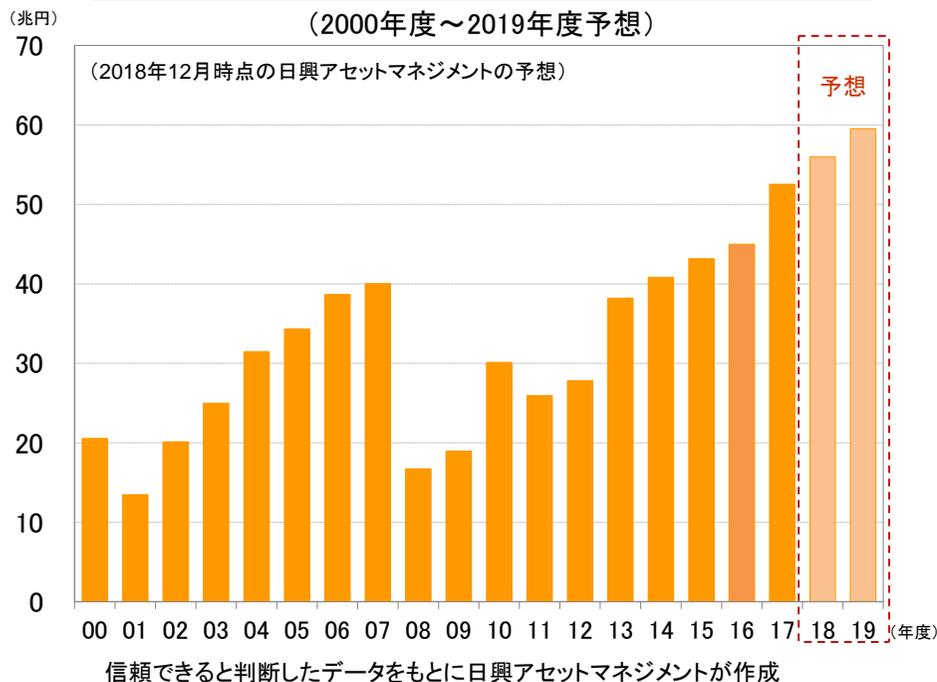
\*2 機関投資家に責任ある投資行動を促すための原則を定めた指針

\*3 コーポレートガバナンス(企業統治)の強化に向けて企業が尊重すべき事項を定めた規範

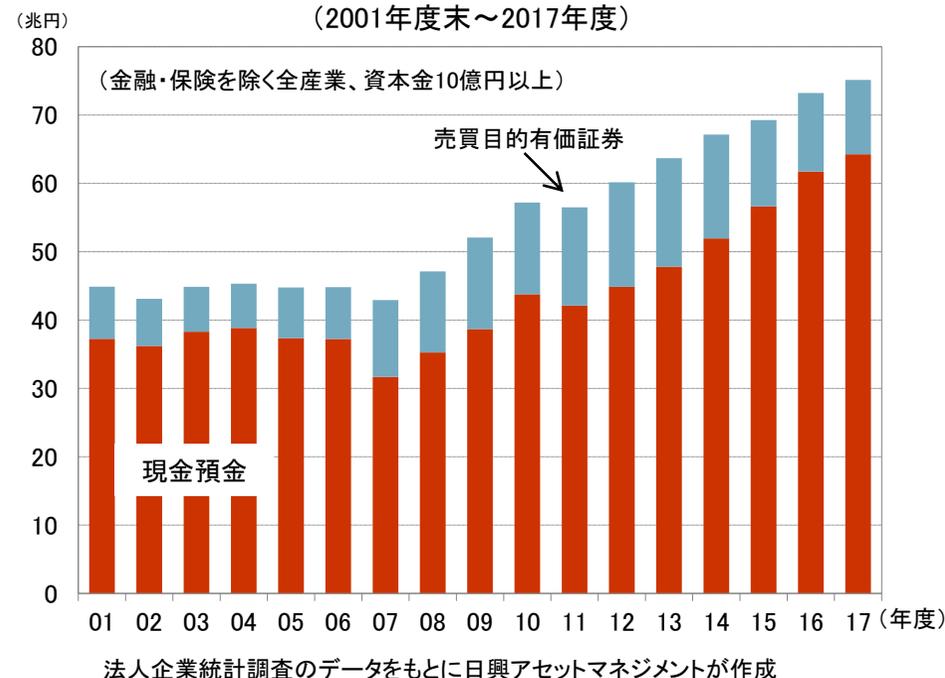
## 増益傾向となるなか余剰資金の積み上がりは高水準に

- 弊社集計では、2018年度の日本企業（東証一部銘柄、除く金融ベース）の経常利益は、7年連続増益、5年連続の過去最高益更新の見込みとなりました。
- 企業の現金預金は、2008年度などの利益が大きく減少する局面でも着実に積み上げられてきました。2016年度には60兆円を超える水準まで積み上がっており、企業の資金余力は大きくなっています。

### 東証1部銘柄（除く金融）の経常利益合計の推移



### 企業の現金預金などの推移



※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

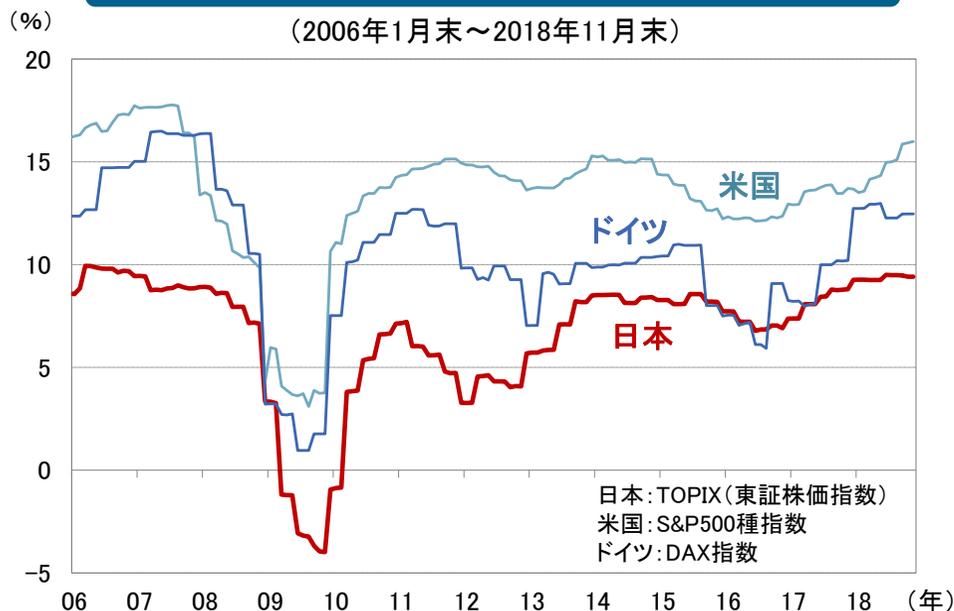
■当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

## 資金の活用などに対して高まる企業の意識

- 日本企業のROE(自己資本利益率)は、米国と比較して低い水準にあるものの、足もとでROEを銘柄選定の基準に組み入れた新たな株価指数が登場し、公的年金などの運用指標に採用されるなどの環境変化を受けて、資金活用やROEに対する企業の意識が高まり、近年上昇傾向にあります。
- さらに、JPX日経中小型株指数の算出開始により、ROE重視の流れが中小型株にも波及することが期待されます。

### 主要国のROEの推移

(2006年1月末～2018年11月末)



### 環境の変化

- JPX日経インデックス400算出開始
- JPX日経中小型株指数算出開始(2017年3月)
- 日本版スチュワードシップ・コードの導入
- 日本版コーポレートガバナンス・コードの導入
- “新”成長戦略 など

### 資金の活用・ROEに対する企業の意識の変化



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

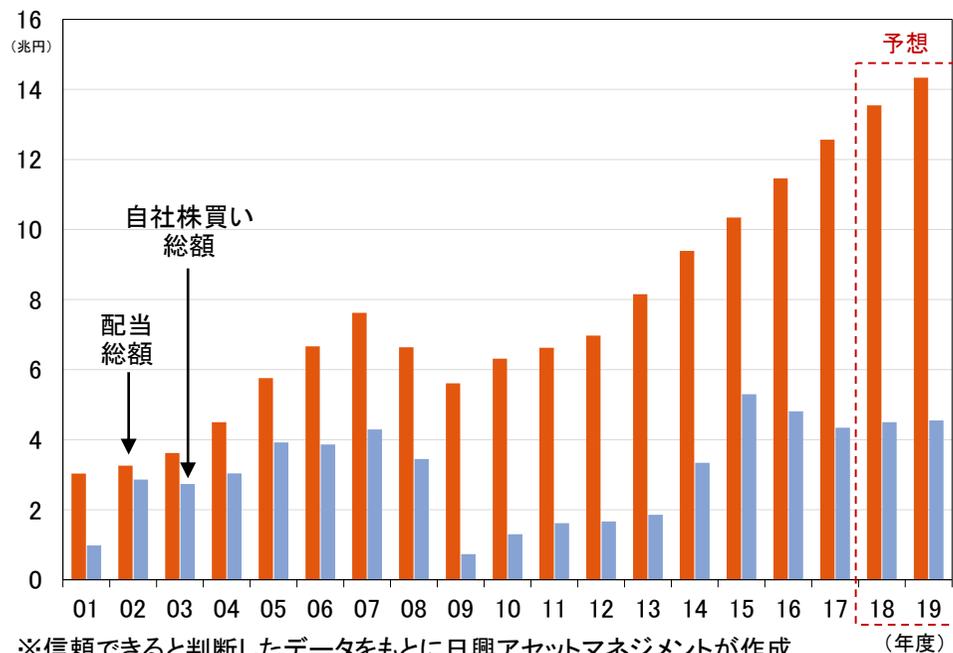
■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

## 今後も増加が予想される株主還元

- 積極的な増配などの新たな資本政策を打ち出した企業に対する市場での評価が大きく高まるなど、株主還元への注目が集まっています。
- 企業業績の拡大による資金余力のさらなる増加が見込まれていることに加え、株主還元への意識が強まっていることから、配当や自社株買いは増加基調を維持すると予想されます。

### 配当および自社株買い総額の推移

(2001年度～2019年度予想\*) \* 2018年9月末時点の予想



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
 ※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

### ご参考：自社株買いで期待される主な効果

- 流通株式数の減少
- 経営陣が自社の株価を割安と考えていることを示唆
- ROEの向上
- 自社株買い後に消却した場合、1株当たりの株式価値の高まり

株価上昇への期待

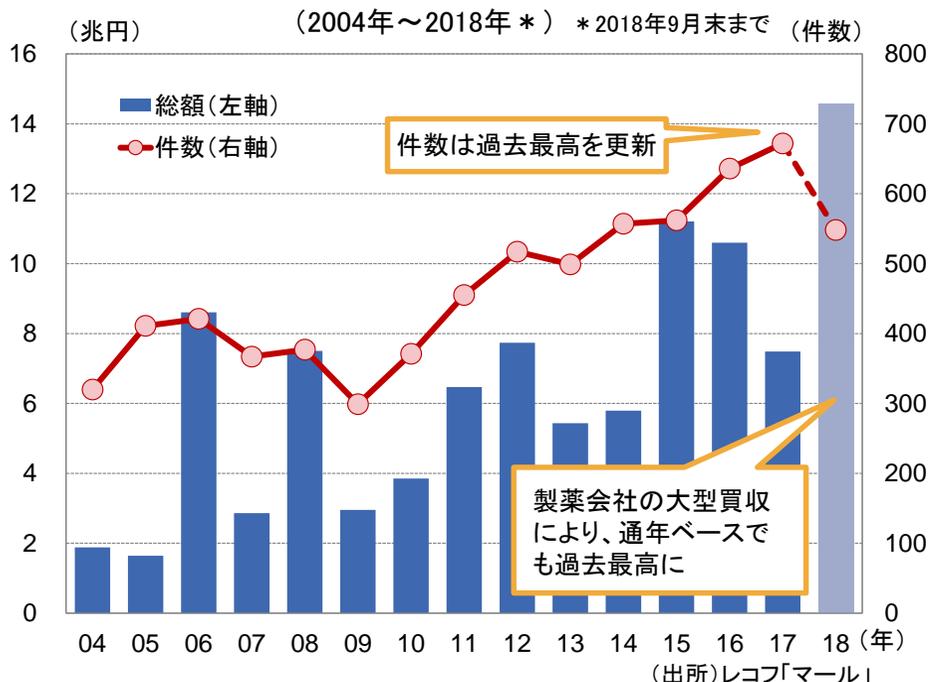
上記は一般論です。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

## 次なる成長に向けた企業の資金活用

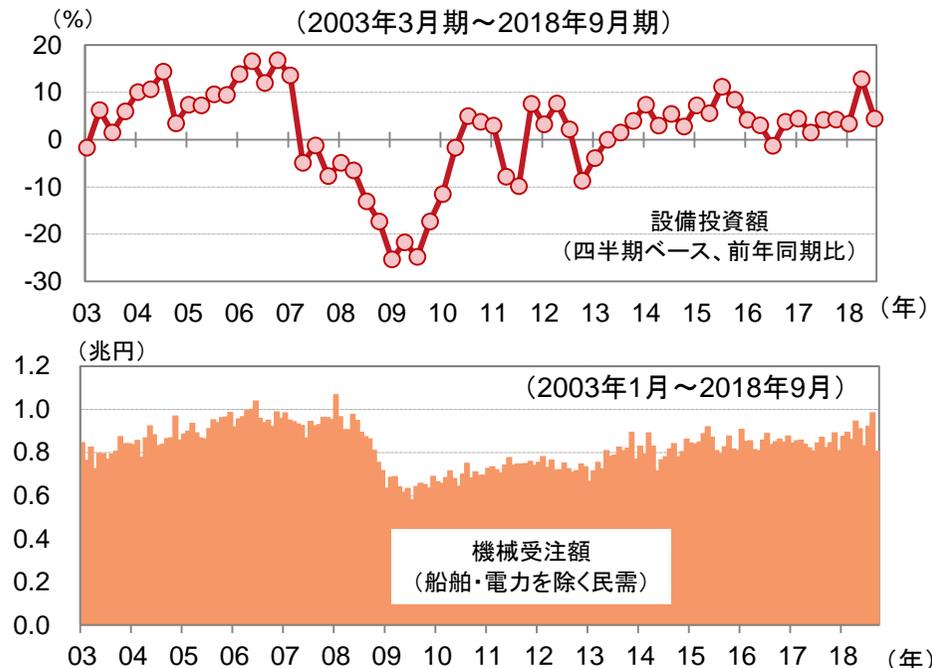
- 日本企業の海外企業に対するM&A(合併・買収)についても、内需型企業が海外に成長の活路を求める動きの強まりなどから活発化しており、企業の豊富な手元資金の有効活用につながると期待されます。
- 設備投資は、回復基調となっています。2018年12月調査の日銀短観では、18年度の設備投資計画は大企業・全産業で前年度比+14.3%に伸びが高まっています。

### 日本企業の海外M&Aの総額と取引件数の推移



※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

### 設備投資と先行指標の推移



法人企業統計調査および機械受注統計をもとに日興アセットマネジメントが作成

## 日興キャッシュリッチ・ファンドについて

---

---

## ファンドの特色

1

### 株主価値重視への経営姿勢の転換などが見込まれる企業に投資します。

- 財務データ分析などの定量評価に加えて、企業訪問を中心としたボトムアップリサーチを行ない、株主価値を重視する経営姿勢への転換などにより株価の値上がりが期待される銘柄に投資します。
- 制度改正による企業再編の加速化など、外部環境変化による株主価値重視プロセスも勘案します。

2

### わが国におけるキャッシュリッチ企業の株式を中心に投資を行ないます。

- 現金など流動性の高い金融資産※を多く保有する企業(=「キャッシュリッチ企業」)の中から、割安と判断される株式を主な投資対象とします。

※ 流動性の高い金融資産＝流動資産など－有利子負債  
例) 現預金、有価証券など

3

### バリュー株(割安株)に焦点を当てた独自の調査・運用体制により、株式市場において見過ごされている銘柄の発掘に努めます。

- 財務データ分析などの定量評価だけでなく、セクターアナリストおよびバリュー株(割安株)調査・分析に特化した“バリュースタイルアナリスト”による徹底的な取材などに基づく定性評価を行ないます。
- 証券会社や他の機関投資家などの調査対象に十分組み込まれていない企業に関しても、独自の調査を行なうことにより、投資価値を判断します。

# 【ご参考】TOPIXを上回るパフォーマンス

- 当ファンドのパフォーマンスをみると、2008年以降は概ねTOPIXを上回っています。



【当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資ベース)とTOPIX(配当込)の年間騰落率】

年	2005*	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018*
当ファンド	35.5%	-3.0%	-12.6%	-30.0%	14.8%	4.5%	-9.7%	16.6%	57.1%	26.2%	12.4%	5.8%	37.9%	-9.0%
TOPIX(配当込)	42.0%	3.0%	-11.1%	-40.6%	7.6%	1.0%	-17.0%	20.9%	54.4%	10.3%	12.1%	0.3%	22.2%	-6.4%

\* 2005年は設定日前日(4月14日)から2005年末まで、2018年は11月末までの騰落率

※TOPIX(配当込)は、当ファンドのベンチマークではありません。 ※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したとして算出した理論上のものである点にご留意ください。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

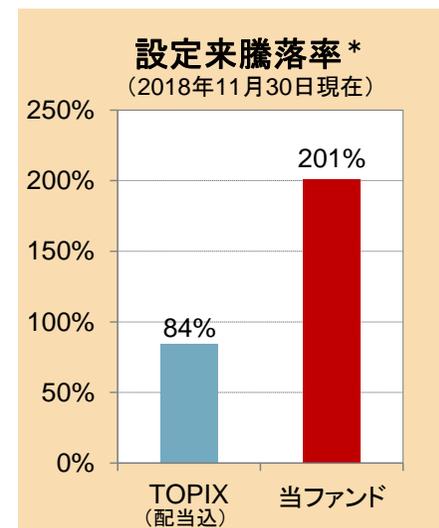
基準価額(2018年11月30日)

**30,107円**

(税引前分配金再投資ベース)

**29,039円**

(税引前分配金控除後)



\* 設定日前日(2005年4月14日)からの騰落率を計算しています。

■ 当資料は、投資者の皆様様に「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

# ポートフォリオの内容

(2018年11月30日現在)

- 当ファンドの規模別構成比率みると、時価総額2,000億円未満の中小型銘柄の比率が多くなっています。

## 組入上位10銘柄（銘柄数99銘柄）

	銘柄	業種	比率
1	日信工業	輸送用機器	4.05%
2	任天堂	その他製品	3.37%
3	塩野義製薬	医薬品	2.60%
4	セイノーホールディングス	陸運業	2.35%
5	ダイハツディーゼル	輸送用機器	2.24%
6	参天製薬	医薬品	2.21%
7	ヤフー	情報・通信業	2.17%
8	リクルートホールディングス	サービス業	2.15%
9	タクマ	機械	1.98%
10	OSJBホールディングス	建設業	1.81%

※当該銘柄の売買を推奨するものではありません。また、将来の組入れを示唆するものでもありません。

## 規模別構成比率

時価総額	比率
500億円未満	14.1%
500億円以上 1,000億円未満	18.1%
1,000億円以上 2,000億円未満	14.8%
2,000億円以上	53.0%

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

## 業種別構成比率

	業種	比率
1	機械	12.4%
2	電気機器	11.6%
3	輸送用機器	10.6%
4	情報・通信業	10.5%
5	小売業	8.6%

## 市場別構成比率

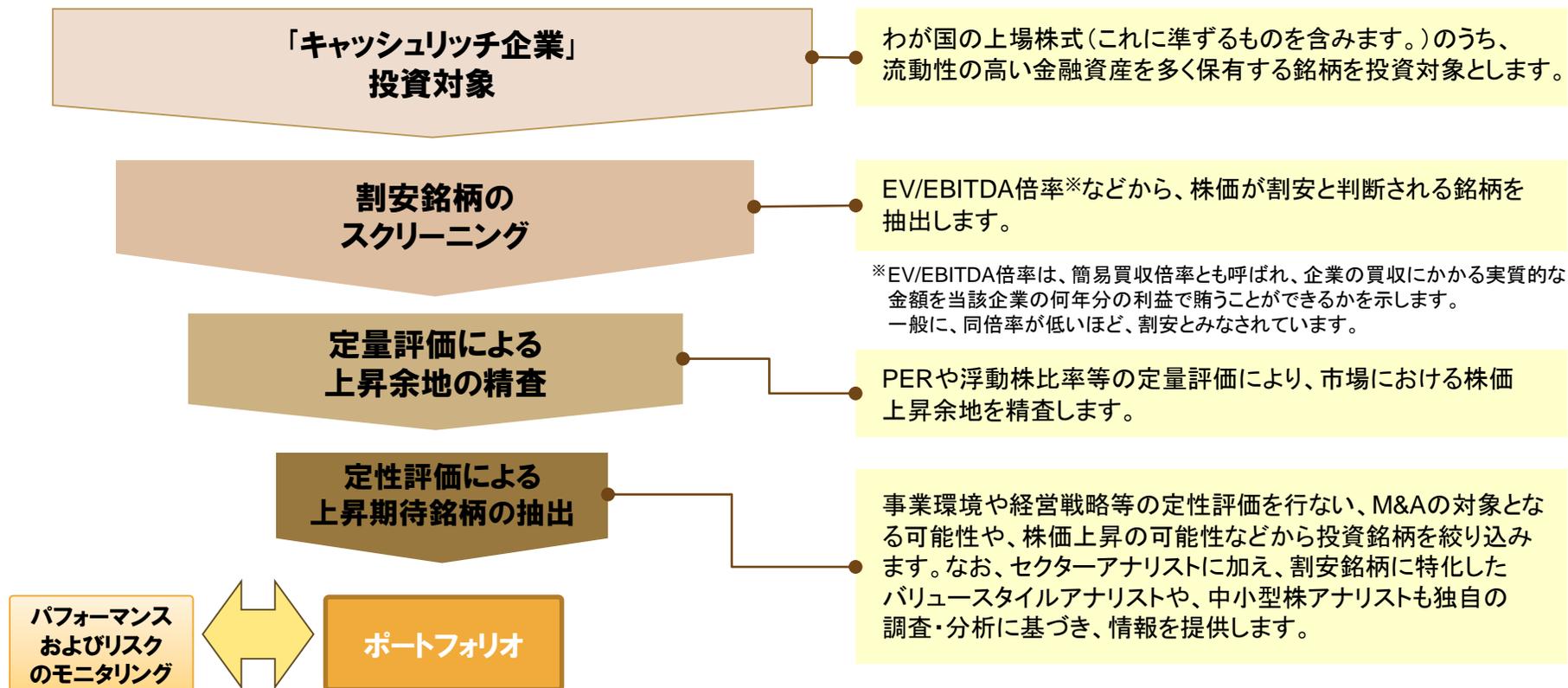
一部上場	92.8%
二部上場	6.0%
ジャスダック	0.8%
マザーズ	0.4%
その他	0.0%

- ※ 各データはマザーファンドの状況です。
- ※ 「組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。
- ※ 「業種別構成比率」「市場別構成比率」「規模別構成比率」は組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

## 運用プロセス

- 定量評価に加え、セクターアナリストおよびバリュー株(割安株)調査・分析に特化した“バリュースタイルアナリスト”による定性評価を行ない、キャッシュリッチ企業の中でも割安と判断され、株価上昇が見込まれる銘柄に厳選投資を行ないます。



※上記は2018年4月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

## お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2022年4月15日まで(2005年4月15日設定)
決算日	毎年4月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

## 手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.24% (税抜3%)</u> 以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に対し <u>0.3%</u>

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率2.0196% (税抜1.87%)</u>
その他の費用・手数料	監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社	
販売会社	投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは 岡三オンライン証券株式会社 (金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第52号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会)	他

## お申込みに際しての留意事項①

### リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

#### 【価格変動リスク】

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

#### 【流動性リスク】

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

#### 【信用リスク】

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## お申込みに際しての留意事項②

### その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。



日興アセットマネジメントは日本ウィルチェアラグビー連盟を応援しています。

